

『ろう通訳カリキュラム』



『ろう通訳カリキュラム(日本語版)』構成

- 第1編 ろう通訳 過去、現在、未来
- 第2編 ろうコミュニティ内の人種、文化の多様性
- 第3編 通訳利用者の把握 -文化、言語、コミュニケーションスタイルの確認
- 第4編 ろう通訳者の倫理の考察及び課題
- 第5編 ろう通訳利用者の通訳理論と実践
- 第6編 聴／ろう、ろう／ろう通訳チーム

無料でダウンロードできます

『ろう通訳カリキュラム(日本語版)』
発行日:2021年7月15日
日本語訳:岡 典栄・高木真知子・森 亜美
レイアウトデザイン:杉原大介
ページ数:294ページ
発行:NPO法人手話教師センター



ろう通訳者養成講座 フィーダー養成講座

ろう通訳者が聴通訳者と協働して手話通訳を行えるように、2015年から日本財団の助成を得て、養成事業を開始しました。

ろう通訳者養成講座は手話通訳の仕事をしたいろう者が、フィーダー養成講座はろう者と協働したい聴通訳者が受講しています。

これまでに、ろう通訳者51名、聴通訳者37名がそれぞれの講座を修了しました。

現在、10期生(ろう通訳者養成講座6名、フィーダー養成講座3名)が受講中です！

(2024年6月現在)



コミュニティ通訳領域における模擬通訳(相談場面)
本物の行政書士さんに協力いただいています！

ろう通訳者

手話通訳を行う人がろう者である場合に「ろう通訳者」といいます。

英語ではDeaf Interpreter(DI)といいます。資格のあるろう通訳者をCDI(Certified Deaf Interpreter)ということもあります。

聴通訳者

手話通訳を行う人が聴者である場合に「聴通訳者」といいます。

英語ではHearing Interpreter(HI)です。

フィーダー

通訳者が2名で通訳する場合、起点言語を通訳してもう一人の通訳者に伝える(フィードする)役割の人をいいます。起点言語が音声言語の場合、聴通訳者がろう通訳者にフィードすることが多いです。逆に起点言語が手話言語である場合は、ろう通訳者が聴通訳者にフィードすることが多いです。手話言語同士の場合、フィーダーはろう通訳者、聴通訳者に限定されません。

CO通訳(協働通訳)

ろう者と聴者の手話通訳者が一体となって協働して通訳することをいいます。

世界には、資格のあるろう通訳者がさまざまな場面で活躍していますが、日本では、資格制度がありません。

(財)全日本ろうあ連盟は、手話通訳について「ろう者も含めた制度・環境作りが必要と考える」として、検討体制に入りました。
(2024年度評議員会会議資料Ⅰ)